

令和 4 年度

東アジア文化創造 NARA クラス 事業報告書

令和 4 年 8 月～11 月

奈良市 文化振興課

東アジア文化創造 NARA クラスについて

■ 東アジア文化創造 NARA クラス

「東アジア文化創造 NARA クラス」は、2016 年の東アジア文化都市における日中韓交流事業の成果を未来へと繋いでいくため、大学生や高校生等を対象とした国際文化交流プログラムである。

平成 29 年度から実施しており、奈良市内でさまざまな分野についての学びを深める「東アジア学びの扉」、中韓から大学生や高校生等を招き交流を行う日中韓交流プログラム、さらに現地に渡って学生たちと交流を行う海外渡航プログラムを行ってきた。

■ 令和 4 年度プログラムについて

令和 2 年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響により各都市への渡航プログラムの開催が困難となったため、各都市で協議を行い、3 都市共催のオンライン交流プログラムとして実施することで事業を継続しており、令和 4 年度についてもオンライン開催とした。また、企画運営にあたっては、過去に本事業へ参加したことがある学生・生徒が企画運営ボランティアとして参画した。

東アジア文化都市 2016 奈良市

「東アジア文化都市 2016 奈良市」では、事業の柱となる「基幹事業」、中国・韓国のパートナー都市とともに開催する「交流事業」、奈良の既存のポテンシャルを生かしさまざまな事業と連携し発信する「連携事業」、そして、東アジアの文化をテーマとした「シンポジウム」で構成。

「交流事業」では、パートナー都市である、中国・寧波市、韓国・済州特別自治道とさまざまな分野において文化交流を行った。

目 次

事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
各プログラム紹介・・・・・・・・・・・・・・・・	2
参加者感想・・・・・・・・・・・・・・・・	1 2
企画運営ボランティアについて・・・・・・・・	1 3
令和4年度事業 成果と課題・・・・・・・・	1 4

事業概要

参加者応募・選考について

応募資格：奈良市内に在住・在学・在勤の15歳以上25歳未満の方。（中学生をのぞく）

25歳未満の留学生

募集期間：令和4年6月28日（火）～令和4年7月25日（月）

○応募者 (人)

結果	高校生	大学生	留学生	合計
選考通過	5	8	1	14
落選・辞退	0	0	0	0
合計	5	8	1	14

※選考通過者のうち1人辞退

○参加者

日本 奈良市：13人（大学生7人 高校生5人）

中国 寧波市：20人（大学生7人 高校生13人）

韓国 済州特別自治道：13人（大学生1人 高校生12人）

プログラムスケジュール

8月28日（日）	参加者ガイダンス、3都市交流スタートプログラム
9月23日（金・祝）	国内プログラム①（きたまち散策、赤膚焼絵付け体験）
10月30日（日）	国内プログラム②（表現力向上ワークショップ等）
10月22日（日）	済州独自企画文学交流プログラム（希望者のみ参加）
～11月20日（日）	
11月27日（日）	3都市交流プログラム 成果報告会

各プログラム紹介

令和 4 年度事業について

平成 29 年度の開催から 6 回目の実施となる令和 4 年度事業については、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴い、渡航を伴わないオンライン開催とした。

日中韓の参加者たちはスタートプログラムにおいて、3 都市それぞれが企画した交流プログラムに参加し、各都市の文化を理解するとともに、親睦を深めあった。

その後、奈良の参加者については、2 つの国内プログラムにおいて、奈良の魅力を自分たちの言葉で発信できるよう、奈良の歴史文化を深く知る体験プログラムや、表現力を高めるためのワークショップに参加した。

また、済州特別自治道が企画した、映画・文学についてのオンライン交流プログラム「私たちが好きな映画・文学作品」に 5 人の参加者が奈良市から参加した。

最後に行った成果報告会では、「私たちが好きな映画・文学作品」での成果と併せて、行い、各プログラムの成果を発表した。

【3 都市交流プログラム】

日中韓の参加者が一斉に参加するオンライン国際交流プログラム。

- [1] 3 都市交流スタートプログラム（企画・進行：奈良市、寧波市）
- [2] 3 都市交流プログラム 成果報告会（企画・進行：済州特別自治道）

【文学交流プログラム】（希望者のみ）

映画・文学についてのオンライン交流プログラム。

「私たちが好きな映画・文学作品」（企画・進行：済州特別自治道）

【その他】

- [1] 参加者ガイダンス（奈良市国内プログラム）
- [2] きたまち散策、赤膚焼絵付け体験（奈良市国内プログラム）
- [3] 表現力向上ワークショップ等（奈良市国内プログラム）

参加者ガイダンス、3都市交流スタートプログラム

日 時 令和4年8月28日（日）10:00～17:00

場 所 奈良市：みらい価値共創センター「コトクリエ」 太陽のホール

寧波市：会場中継 濟州特別自治道：会場中継

参加者 奈良市：10名（3名欠席） 寧波市：20名 濟州特別自治道：13名

企画運営ボランティア3名

内 容

<参加者ガイダンス（奈良市参加者のみ） 10:00～12:00>

文化振興課長 森 光子（もり みつこ）より挨拶を行った後に、事務局よりプログラムの詳しい説明を行った。その後、企画運営ボランティアより中韓パートナー都市の説明と令和3年度のオンライン交流の様子を紹介し、参加者たちが自己紹介を行った。参加者たちは緊張している様子だったが、互いの国を行き来することが困難な状況においてオンラインという形で国際交流ができることを大変楽しみにしている様子であった。

続いて、午後のスタートプログラムで行われる各都市のパフォーマンス披露や郷土料理紹介の説明を行い、準備作業を行った。

<3都市交流スタートプログラム 13:30～17:00>

■ 交流プログラム開始 （逐次通訳）

3都市交流スタートプログラムは、奈良市の進行により行った。スタートプログラムの冒頭に、奈良市からは谷田 健次（たにだ けんじ）市民部長、寧波市からは文化広電旅遊局副局長 邱 金岳（きゅう きんがく）氏、濟州道からは文化体育対外協力局長オ・ソンユル氏にご挨拶いただいた。

■ 参加者自己紹介（英語）

日中韓の各参加者が英語で自己紹介を行った。奈良の参加者は一人ずつフリップを用いて名前や趣味等を紹介した。日中韓参加者の中には日本語や中国語、韓国語を勉強している参加者もあり、それらの言語を使いながら自己紹介を行っている場面がみられるなど、各都市参加者からは、これからはじまる交流プログラムへの期待が感じられた。

■ 出し物・クイズ

3都市の交流を深めるため、奈良市、寧波市、濟州特別自治道それぞれがパフォーマンスを披露した後、都市の歴史文化に関するクイズを出題した。奈良市の参加者は、「さんぽ」（映画「トトロ」主題歌）を、奈良の観光地を紹介する替え歌にして披露し、問題の出題と正解発表を行った。また、各都市からのクイズにも解答した。

オンラインということもあり、3都市間での意思疎通が難しいと感じる場面もあったが、参加者自身がクイズ問題を出し合ったことで、お互いの都市への関心が高まったと感じられた。

■ 料理紹介

お互いの地域の食文化を教え合うため、奈良市、寧波市、済州特別自治道それぞれが料理紹介を行った。奈良市の参加者は弁当文化について、実際に自分が作ったお弁当を見せながら紹介した。寧波市は寧波を代表する伝統的な浙江料理を紹介した後、済州は島ならではの名物料理や季節料理について紹介を行った。

■ 今後について（逐次通訳）

最後に済州担当者から独自企画の文学交流プログラムについての説明を行い、スタートプログラムを終了した。



趣味・特技など

午後の日中韓交流プログラムの際も自己紹介がありますので、その練習と思ってください。





国内プログラム：きたまち散策、赤膚焼絵付け体験

日 時 令和4年9月23日（金・祝） 9:30～16:30

場 所 奈良市内（きたまちエリア、音声館）

参加者 10名（3名欠席）、企画運営ボランティア4名

内 容

■ きたまち散策

午前中は奈良市観光大使である倉橋みどりさんのガイドによるきたまち散策を行った。きたまちについての説明を聞いた後、猿楽を発展させた神様として有名な奈良豆比古神社、鹿せんべいを製作している武田商店、明治16年に誕生した奈良県で最も古い牧場である植村牧場、国の重要文化財に指定された旧奈良監獄を見学した。

■ 赤膚焼絵付け体験

午後は奈良市音声館で、奈良伝統工芸後継者育成研修第6期生の大塩ほさなさんが講師をつとめる赤膚焼の絵付け体験を行った。参加者たちは説明を聞いた後、用意されたお皿の前に、まずは紙に鉛筆で描く下絵の作成に取り掛かった。実際に筆と顔料で皿に描く前に、講師が皆を集めて絵付けを実演。巧みな筆さばきに参加者たちからは歓声が上がっていた。そしていよいよ絵付け体験。やってみるとかなり難しく、静まり返った室内で全員が集中して取り組み、それぞれ個性的で素敵な作品に仕上がった。

普段あまり触れる機会のない絵付け体験に参加し、奈良の伝統文化への理解を深めている様子であった。





国内プログラム：表現力向上ワークショップ

日 時 令和4年10月30日（日） 14:00～16:00

場 所 奈良市ならまちセンター2F 多目的ホール

参加者 5名（8名欠席）、企画運営ボランティア4名

内 容

講師の小野小町さんの指導のもと、表現力向上ワークショップを行った。

最初、緊張して臨んでいた参加者は、「喜怒哀楽の感情を自分の声や身体でどのように表現するか？」「詩を私たちに解釈して皆で読んでみたらどうなるのだろうか？」などの新鮮な課題に、新たな気づきを得たようで、皆いきいきと取り組んでいた。

ワークショップ後は、企画運営ボランティアが企画した、アートフラッグ制作を実施した。

3チームに分かれ、日中韓の"友情"をテーマに選んだ曲を聞きながら、その印象を絵にして、大きな白いフラッグに描いていった。それぞれのチームでアイデアを出し合い、個性あふれる表現でフラッグを完成させることができた。



済州独自企画文学交流プログラム（希望者のみ参加）：
「私たちが好きな映画・文学作品」

期 間 令和4年10月22日（日）～11月20日（日）

奈良市参加者 5名

内 容

日中韓各都市が「映画作品」・「文学作品」を1つずつ提案した。

奈良市：「天空の城ラピュタ」、「1Q84」

寧波市：「こんにちは、私のお母さん」、「三体」

済州道：「神と共に」、「アーモンド」

日中韓参加者が各都市から提案された6作品の中から好きな作品を1つ選び鑑賞し、事前準備として感想などをまとめた。

1回目のグループワークでは、各自の感想を言い合い、発表方法などについて検討を行った。

2回目のグループワークでは、参加者たちは発表に向け各自が考えたことを共有し、発表者やPPT作成の役割を決った。

3回目のグループワークでは、発表で使用するPPTの内容をグループ全員で確認し、発表に向けて準備を進めた。

11月27日の成果報告会でグループごとに発表を行った。

3 都市交流プログラム 成果報告会

日 時 令和4年11月27日(日) 14:30~17:00

場 所 奈良市：みらい価値共創センター「コトクリエ」 太陽のホール

寧波市：会場中継 濟州特別自治道：会場中継

参加者 奈良市：10名(3名欠席)、寧波市：20名、濟州特別自治道：12名

企画運営ボランティア3名

内 容

■ 成果報告会開始(逐次通訳)

成果報告会は濟州特別自治道が進行を行った。

冒頭に、濟州から濟州道文化芸術財団理事長 金 秀烈(キム スヨル)氏、寧波市から寧波市文化広電旅遊局副局長 徐 小設(じょ しょうせつ)氏にご挨拶いただいた。また、奈良市からは文化振興課課長 森 光子(もり みつこ)による挨拶を行った。その後、濟州道出身の若手音楽家によるパフォーマンスが披露された。

■ 成果報告(英語)

濟州特別自治道が企画した文学交流プログラム「私たちが好きな映画・文学作品」に参加した学生たちが各グループでグループワークのなかで共有した内容について成果報告を行った。

濟州独自企画に参加していない奈良市参加者でも事前に発表の準備をし、自分の好きな映画や文学作品を皆に紹介した。

その後、奈良、寧波、濟州の順で各都市2人ずつ参加者代表から挨拶を行った。

最後に記念写真を撮影し、中韓参加者との別れを惜しんでいるようであった。





企画運営ボランティアについて

参加者目線で企画を検討できるよう、過去に「東アジア文化創造 NARA クラス」へ参加した者を対象に、企画運営補助ボランティアを募集した。

企画運営ボランティアたちは市職員と共に構成する「ワーキングチーム」の一員として、プログラムやワークショップの企画検討会議やプログラム当日の運営補助、司会進行を行った。

プログラム終了後の反省会では、次のような感想や意見があった。

- ・自分自身が楽しいだけでなく、周りの参加者で困っている人がいないかを意識して活動した。特に、自分がリードできる場でもあえてサポートに回することで多少時間はかかっても参加者の意見やアイデアを引き出すことが出来ると学ぶことができた。今後、社会に出てリーダーシップを取ることがあれば生かしていきたい。
- ・参加者が国際交流をオンラインでも最大限に楽しめるようにすることを目標に取り組んだが、そのためにはどうすればいいのかを本番までに数回のミーティングを通してたくさん考えた。ボランティアとして国際交流を支える活動をしたのは初めてであったが、自分の将来に向けて、いい経験となった。国際交流はオフラインで行うのが当たり前だったものが、オフラインでも当たり前の世界になったことで、NARA クラスのプログラムも新しいかたちで行えていると思う。司会という大切な役割も務めさせて頂いて、とてもいい経験であった。
- ・一つ一つのプログラムが細部まで決められた上で進んでいて、企画の裏側が見れて勉強になった。
ボランティアスタッフも全員揃うことができないなか、役割分担をして、協力する大切さを学ぶことができた。

参加者感想

参加者 1（大学生）

まず、知らない人や他国の方と関わる機会を得たことが一番成長につながったと思います。同じ奈良の生徒とも仲良くなり、他国の方とも趣味の話をしたりと楽しいクラスでした。あと、私は就活を通じて初めて奈良のことを勉強したので、知らなかったことや場所等たくさん知ることができました。

大々的な目標は掲げていなかったのですが、参加してよかったなと心から思うことができたことが嬉しかったです。

参加者 2（大学生）

これからも同様に多くの人と知らない状態で関わる場面や自分自身の考えを発信していく場面が生まれると思います。その際に今回の経験から、動じずに恐れず挑戦していきけるようにしたいです。

参加者 3（高校生）

3都市交流会をはじめとし、普段あまり触れることのない奈良の文化に触れることや、言葉の表現の仕方などを学ぶことができました。また違う国の方々と発表を準備し、交流でたくさんの刺激を受けましたし、とても楽しかったです。

参加者 4（高校生）

今回の交流プログラムを通して、自分の人生においてなにか役に立つスキルを向上できたと感じました。すべてのプログラムに参加しましたが、その中でも一番記憶に残っているのが済州企画のグループワークです。私が参加したグループでは中々言語を超えた疎通が難しく、その中で自分ができることは何か考えることはできましたが、それを行動や言動に移すことができませんでした。この経験を活かして、次同じように言語が違う人たちと話す機会があれば、自分から積極的に行動したいなと思いました。

令和4年度事業 成果と課題

<成果>

- 令和2年度から3年連続で渡航を伴わないオンラインでの国際交流プログラムとなったが、「東アジア文化都市2016」のパートナー都市との交流を継続することができ、次年度以降につながる内容となった。
- 前年度から国内プログラムの内容を充実させ、奈良の文化体験や表現力ワークショップを行うことで、奈良の参加者同士の交流を深めることにつながった。
- 過去参加者を対象に募集した企画運営ボランティアが事業の企画に参加したことで、大学生や高校生の視点での企画や場づくりを行うことができた。

<課題>

- 英語での進行や発表が多く、中国語や韓国語を得意とする参加者や中国語や韓国語の習得を目指す参加者にとって、両言語に触れる機会が少なくなり、物足りなさを感じる内容であった。
- グループワーク（済州特別自治道企画）は任意参加であったため、成果報告会において、参加した者とそうでない者の発表の内容が異なることとなり、プログラムの達成感を参加者間で共有することが困難となった。

奈良市文化振興課
奈良市二条大路南一丁目 1-1
☎0742-34-4942 📠0742-34-4728
令和 5 年 4 月